

No. 1

1984

1月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区

発行責任者
林 直 輔

印刷者
飯田共同印刷㈱



さざんかの花

福島 光三郎

白いさざんかの花は

和紙の冷たさがある

朝の寒気

それに耐へている柔かい強さ

白い花は

清純のうちに静まるばかり

さざんかの白い花

みどりの葉

人の知らぬうちに蕾をもち

花となるさざんか

さざんかの花

白い優美が漂はす閑寂

△写真説明△

下市田の産土様と萩山神社拝殿

(昭和五十八年十二月撮影)

区報「萩の郷」の発刊に当って

下市田区長 林 直輔



私達高森町には、「広報たかもり」「公民館報」があり、が月々発刊されておりますが、これの果す役割は実に大きなものがあると思います。

これらは、町政の方針、町内の出来ごとを皆さんに知ってもらうこと、また皆さんからの意見・希望・考案方など、お互いに理解しあうことなど、文書を通して、ふれ合いの場が町政に生かされ、明るい町造りに役立っております。

下市田区も、町内の約三分の一を占める戸数を持つ大部落となり、昔の純農村は今やあらゆる階層の住むいわゆる混住社会となっており、参りました。こうした中で、住みよい地域、我が下市田を造るにはどうしたらいいのかと、区の執行部もいろいろ苦慮致しておりますが、今回発刊のはこびとなりま

した「萩の郷」も、その目的のひとつとして取り上げました。

日頃皆様方が考えておられること、建設的なご意見や苦情など、どしどしお寄せ戴き、また区の執行部としまして、区政の方針、皆様方からお寄せ戴いたものに對してお答えする等、紙面を通じてふれ合いを持ち、また故郷を遠く離れてお働きの家族や、勉学中の子弟・友人の方がたに、郷

最後に皆さんに愛される読み物、待たれる区報として育てて行くことと祈念致しまして、発刊のご挨拶と致します。



輝しい新春を迎え、お慶び申し上げます。

昨年は皆様のご協力によりまして、区の事業も極めて順調に進めることができました。

本年も益々充実した年でありたいと願っております。昨年よりの区の動き及び懸案になっていることを申し上げて、一層のご協力をお願い申し上げます。

賀正



発刊のご報告を兼ねて

下市田公民館長 小島 正美



下市田区公民館長 小島 正美

区の動きと懸案事項

下市田区副区長 土屋 公

(一) 代議員制度二年目を迎える。

代議員制になってから一年を経ました。この間に、いろいろな連絡につとめて頂いた、事業の計画決定や予算の決定など真剣に取り組まれた外、作業などにも積極的に協力を頂き心強く思っています。

(二) 道路改良特別基金(仮称)について。

下市田の道路改良の遅れている原因の一つは、用地の取得が困難である事もあります。これを解決するには、用地を提供される地権者の大きい負担を、みんなの力でできるだけ負担し合って、用地の取得をしやすいうようにしてはなりません。

その方法としてこの基金を考えたものであります。

(三) 出砂原六地藏前の土地

昭和五十九年の新春を迎え、下市田区の皆様おめでとく存じます。本年も相変らずよろしくお願い申し上げます。

さて下市田区では、本年度から下市田区報「萩の郷」を発刊することになり、第一号を正月号として皆様方に見ていただくことになりました。

このことにつきましては、三年程前に下市田公民館報を、ガリ版刷りでよいから発行して、公民館の行事等をお知らせすることを考えたことがありましたが、実行することができず今日に至ります。

訴訟について。

昭和五十五年九月訴状を提出してから四年目になりました。この間に二十一回裁判が行われまして、

口頭弁論

証拠提出 四十一件

現地調査 一回

証人尋問 五人

が行われました。これによりまして、江戸時代中頃から、この土地の利用の状態及び下市田が占有使用していた事実を立証した外、明治初年の地租改正の際の調査の誤りに因る旧土地台帳

(次面下段へ)

クラブ紹介 (1)

下市田茶道クラブ

私たちの茶道クラブは、昭和五十年十月に、公民館のクラブとして誕生しました。講師はその年の春、茶道についての講演をお聞きした中島昭平先生をお願いし、公民館の大広間を教室として、毎月一回、金曜日の夜二時間、勉強することとなりました。最初は会員も多かったのですが、それぞれの事情でやめる方もあり、現在は十五名がずっと続けています。三年前に新たに希望者を募り、第二グループが誕生して、その方たちが現在十一名で、計二十六名が熱心に勉強して居ります。

講師の中島先生は今年七十七才になられますが、そんな高令を全然感じさせずに、背筋をぴんと伸ばし、奥様と御一緒に見えて下さって、御夫妻がびったりと息の合ったお点前を見せて下さるのです。

第一グループはもう満八年も続いて来たわけですが、皆さんが農事や家事の忙し

い生活の中で、お茶の稽古の日は色々と仕事を差繰りして、道具を提げて公民館へ集まります。一ヶ月に一回では、前に習ったことは大抵忘れてしまつて、誠に遅々とした歩みではありましたが、先生の、「もたもたしてやるのがいいですよ」と言う御言葉に励まされて、此所までやって来れたと思います。

今では先生が次々に心配して下さって、立派な風炉釜が四組、棚物が三組と、共同の道具が揃い、それに各自で旅単司が揃いました。が、最初は他人に借りたお茶碗や、ころにやかんをかけてのお点前は、日本中探しても此所しかありませんよと言われました。畳のヘリにテープ



を張って、大広間に六つの四畳半の茶室を区切り、「此所は壁があるんだけど一寸ごめん下さい」と壁を突き破って出たり入ったり、思わず笑いがこぼれる和やかな雰囲気なのです。順序を間違えてもお互いに教えたり教えられたりして、実技の時間はすぐに過ぎてしまいます。後半の時間は先生を囲んで、先生の下さったプリントを本にしてお話を聞きます。

お茶については、何も知らなかった私たちがでしたが、八年の間に繋がることがあり、本問題に繋がるものであり、難しい世の中にあつて、どのように生きていったらよいかを教えられるものであ

ることが、少しは理解出来たように思います。その眼目は、「和敬静寂」であり、とにかく、「人の和」「思いやり」と言うことが根本なのではないかと、それは一生をついやしても完成されない目的であるようです。「人生二度なし」「人の上申さず」「はきものそろす」「茶とは限りなき創造的主体性なり」等々、いつも繰返し聞かせていただく言葉ですが、大切な人生の教えであると思います。

先日第四回目の茶味の旅を終りましたが、今までに京都大徳寺を中心に、清水寺・南禅寺・妙心寺、奈良の長谷寺・室生寺などを見学、研修の旅に連れて行っていたきました。先生が五十回余りも行かれて積み重ねて来たものを実際に見説明していただくので此の上もない勉強になります。

下市田四区大正琴クラブ

私たち四区大正琴クラブは、五十五年四月、佐々木伴担先生指導の下に発足致しました。

発足当時は十七名でした。現在は十五名。毎週第二・第四火曜日、月二回練

大徳寺瑞峰院の茶室や聚光院の千利久の茶室（後に此の茶室で利久は自刃した）等見学の回を重ねる程に、その価値が少しずつわかって来たような気がします。

皆さんがお茶を習うようになって、道具にも関心を持ち、旅先などでも、茶碗や壺など一つ、二つと求めて来るようになりました。私もそうした道具を大切に使った様子を孫達にも伝えたいものとひそかに思うのです。また近所の友達とも互いに引き合つて、僅かな時間を見出して稽古するのにも楽しいことになりました。

中島先生御夫妻はじめ、このような勉強の機会を与えて下さった関係の方々に對して深く感謝し、これからもグループの皆さんと共に益々勉強に励みたいと思います。

(三区 上沼政子)

や、登記簿の記載の誤りを立証して、登記簿の表題部に記載されている所有者名の無効と、その後次々になされた登記もすべて無効である旨の弁論が行われまして、裁判も大詰めを迎えました。

ています。また、今年の三月、初めて佐々木先生門下の発表会が福祉センターで行われまして、皆さん方のすばらしい演奏をお聞きすることができ、楽しいひとときを過ごしました。

みんな老後の生き甲斐として、月二回の練習日を楽しみにしています。

(四区 木村ふさる)



史跡めぐりシリーズ (1)

古御家 三區勝又恒一

中村藤雄氏蔵の嘉永三年市田郷明細帳に、古屋敷が四ヶ所あり、本城・古小屋・坂牧・大洞(蔵屋敷)と記載されている。

前九年の役に敗れた安倍貞任の二男 仙千代は、乳母と共に奥州から逃れ来て牛牧に泊り、郷氏に推されて郷中松岡の地に居館を構え、その名をとって松岡平六郎貞則と称し、以来徳川初期迄五百年間大勢力で栄えた。

古御家は、松岡氏が最初の居館を構えた所であると云われる。古御家は高森南小学校に近い唐沢原段丘の突端部にあつて、南西部は江戸ヶ沢の深く切り込んだ断崖に囲まれ、南東部は高い段丘崖となつていて、小さいながら要害の堅固な場所である。全面に老松と雑木が茂り、間に深い堀をはさんで南北二つの郭に構築されている。

北の郭

高森南小学校近くの一郭

で、東西約六十m、南北約四十m、その西縁と北縁に高さ一m程の土塁が築かれ、郭内は三段になつていて、東と西に堀切が作られていた。この郭は曾てここに關係した人々の居所であつたろうと云われている。数年前にここに地均し工事が進められ、その半ば以上が破壊されたことは惜しい極みである。その他の地は松・雑木林になつていて。

空濠

北の郭と南郭とを連絡する土橋の左右に、東西に走る広く深さ十mもある大規模な空濠がある。ここも今は半分近くまで埋立てられていることは惜しまれる。

南郭

深い壕によつて北の郭から隔てられた一郭で、江戸ヶ沢に臨んだ峻しい丘頂を削り平らめて築かれ、東から南西に、「く」の字形に屈曲した細長い平場で、総長約八十m、巾は南西部の狭い所で約六m、広い所は

十五m程ある。北縁の土塁は約四mと高く、南西縁は次第に低くなつて約二mの土塁が築かれている。この土塁の下に、「古御家城址之霊」の石碑があり、光沢家の氏神がある。

この郭の南東断崖部を取り巻くように大小六ヶの帯郭が設けられており、その中五つは小郭であるが、中央崖下にある帯郭は、南郭とほぼ同じ程の長さを持ち、中十m位の長方形のかなり広大な郭で、ここを矢場といひ、その南端には高さ二m位の土塁が築かれ、また東部の大松の近くに、「お姫様の化粧水」と呼ばれる湧泉が現存しており、曾てはこの水を下段の人々が利用していた。昔、「金明水」という名湧水があつて、松岡のお姫様がこの水で顔を洗い、非常に肌が美しくなつたという伝説がある。近くに蜂谷家の小祠がある。

〇

古御家は、規模は小さいが深い断崖の上に作られ、大きな堀や平場、幾つもの帯郭や高い土塁等と複雑、立派に構築され、また秀れた自然の地形によつて前面は広く、伊那谷全域や天竜川そして遠く伊那山脈を望

んで頗る展望がよい。こうして古御家は松岡氏最初の居館址という伝承もあるが、松岡城の見張所として監視兵の置かれた所であつたろうといわれている。曾てこは、展望の見事さ、すぐれた老松樹林の趣から、天皇御成婚記念公園として東屋も建てられたが今日はない。

〇

昭和五十八年十月、高森町自然愛護会では、東京昭和女子大学付属高校教諭浅野一男氏を依頼して、この自然環境調査を行った。

その結果、ここには大昔以来の、モミ・ツガがそのままだけ残り、暖地性植物のカシ類・ヒイラギ・ヤブコウジ等があつて、境界線地帯の

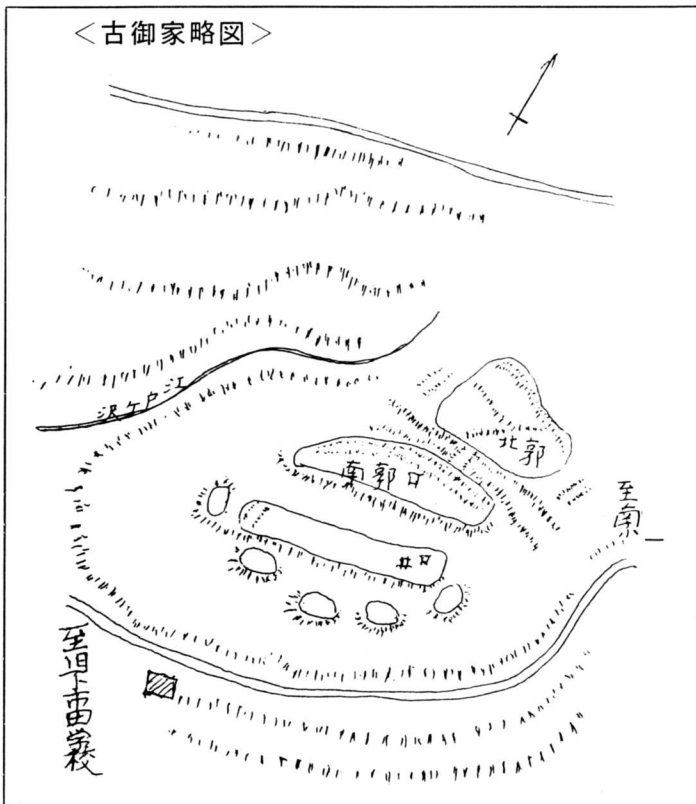
林であり、然も、下伊那では見られない立派なアベマキ林で、そこには高木あり、垂高木あり、低木もあり、更に草本もあつて、その周縁にはマントの役をするアカマツの高木が茂つていて、オオバコ・シロツメクサ・ヨモギ等道端の群落が侵入しておらず、森林の組立てがしっかりしていて、安定している。人家に近い所ながら、荒らされていない。これだけ立派な森林は郡内屈指のものである。

と教示された。

〇
こうして、古御家の今日迄守り残されたことを感謝すると共に、今後ますます古御家と、その周辺地域を、町当局並びに地域の多くの方々の御理解と配慮によつて、史跡と自然の保存利用を大切に考えていただければと思う。



<古御家略図>



△私の意見▽

荒神前街路一期工事から

三区 田口正幸

何かで知り合った人から高森は上の方かな下の方かな、下市田はどの辺だな。下市田駅の近所かな。あの辺はいいとこだなあ。飯田下伊那の一等地だ。いい所に住んでいるなあ。などと言われる。山崩れや大水の心配もない。市街地のように家も建ち並んでいない。駅やバス停にも近いので便利である。十数年前に居を構えた頃は車のことなど考えなかった。農道があったので家を建てるのができたのだ。それから十年足らずで二十数軒の団地となり、経済成長と共に車の時代となった。タクシーや汲み取り車も喜んではいってられないし、消防車もはりにくい。道幅を広くして道らしい道にしたい。これが住民の念願となった。町へ陳情、区へお願いと十年近く行なってきたが、思うように進まなかった。一昨春秋に町から都市計画街路案が具体的に示されて、地元として話し合った。拡幅の必要ない家。宅地をたくさん

出さなければならぬ家。生活道路に四米もいらぬ、三米でよい。どうせやるなら四米でやれ。四米ができなきや三米だつてできない。後になって狭いで拡幅といったつてもうできない。今回がチャンスだ。後になって、子や孫に、おやじやおいじたちは何をしていたんだと言われるぞ。負担金二十万以下でできることだったら、孫子の代まで使え

区(苦)言雑感

A・K生

高森町内でも、下市田の道路が一番悪い、狭い。これは、町内を自動車で通つてみると痛感する問題である。これは何が原因なのか？

唯単に地価が高い、家ごみであるのみではない様な気がします。区当局者・代議員・土木委員等、真剣に検討して載きたいと思ひます。

春に道路改良積立金として一戸三〇〇円ずつ毎月積立てる計画を立てた様です

るんだから安いもんだ。こんな意見まで出るようになった。しかし、犠牲になる人。困る人を泣かせてはいけない。この気持ちはみんなの話しの中にもうかがわれた。

とにかく地域住民のまとまりと熱意により、夢にまで見た道路が、八月の舗装により完成した喜びは筆舌では現わせない。これには委員として日夜交渉してくださった方々、無理を聞いて貴い土地を出してくださった方々、施工・経費の面で協力してくださった役場、下市田の方々に厚くお礼

が、どうなったのか、名目が悪ければよく検討して、よい名目にすればよいと思ひます。

を申さねばなりません。

経費は工事費一〇五〇万円、舗装費三一五万円、地元負担金(土地・建造物・立木の補償金等)三八五万円でありました。

町としても下市田区としても、道路の改修整備を進めなければならないと思うが、土地交渉など、地元の私設的な道路委員に任せるのでは、潰地・建造物・立木の補償額、地元負担額等

痛みと腫れ止めに

卵 酒

下五 光沢 一子

下五 光沢 一子

さといも中五個
しょうが 一片
さといもと同量の小麦粉

皮をむいてすりおろす。そこへ小麦粉を入れてねる。痛むところ、腫れたところへはりつけ、ガーゼなどをかぶせて包帯をまく、皮膚

の弱い人はオリブ油などをぬってからはるとよい。神経痛・打身などの腫れや痛みに効果がある。

教えてください。教えてください。



の計画が明確にならなければ、関係者の同意も協力も得るまでに時間がかかるし、お互いの信頼関係が進めると言っても、個々の細かいことになる不安がある。そこで、道路行政を進めるには、町が主体的に、町の名において土地交換などをし、これを地元委員が協力するようにすれば、もっと早く交渉が成立し、事業も進むのではないかと思う。

た時、寝る直前に飲んでぜひお試しください。

にんにく風呂

六区 高木 てる

にんにく三片
ガーゼの袋か、ハンカチに包む。その上から、にんにくつぶしでつぶすか、まな板にのせて、しゃもじなどでつぶす。

これを湯ぶねに浮かせる。ぽかぽかと体が暖まり、神経痛の人、風邪気味の時などとてもよく効きます。それに湯ぶねからあがってしまえば臭くありませんので、どうぞお試しください。

卵 十五個(寒卵を利用すると、なおよい)
焼酎 五合
砂糖 五百グラム
卵はわりほぐして白い目をととり、泡立器でよくかき混ぜる。そこへ、砂糖・焼酎を入れる。翌日もう一度かき混ぜて一升ビンに移す。この時ガーゼで濾しながら入れると良い。
口あたりが良くおいしいのでどなたでもいただける。風邪をひきそうになっ

萩山神社ものがたり(1)

— いつ頃、誰が —

伊谷唯介



當下市田大字古瀬九八八番地に鎮座します、わたし共の産土様(うぶすなさま)である萩山神社は、いつの頃、誰の手によって創建され、どう云う神様をお祀りしてあるのか。

殿建立と申伝候、三拾ヶ年以上前に縁記共に炎焼仕ル故、開白不知、二十ヶ年以前に再興仕候(下略)。

寛文十二年

神主 久次郎

こんな質問をされるのが折々あるので、改めて、「萩山神社由緒録」とか、「高森町史」或は、「高森町歴史年表」などを読んでみた。

× × × × ×

当社の神社明細帳には、「祭神 建御名方尊、寿永年間、松岡帯刀創立」とあり、また寛文十二年の

「信州伊那郡戸田村諏方大明神之宮、八幡も有り、市田の領主松岡

殿建立と申伝候、三拾ヶ年以上前に縁記共に炎焼仕ル故、開白不知、二十ヶ年以前に再興仕候(下略)。

然し、以上の文字によって、神社の創建が寿永年間であることは明瞭であり、寿永と云えば、寿永一年から同二年までの二年間であって、「寿永年間」とあるだけで、何年とはっきりしないが、今から凡そ八〇〇年前と云って間違いないだろう。そして八〇〇年前は、ゆる源平時代で、やがて平氏が滅亡し源氏の世の中になる頃、郡では飯田城に坂西氏あり、松岡氏は四代目の帯刀である。

ここで萩山神社を創建した松岡氏について、少し触れておく。

前記の、「萩山神社由緒録」によれば、松岡氏の伊那郡土着については、正確

にその時期を知ることにはむずかしいが、伝承の所説などによれば、平安時代の末期といわれている。即ち、「延久の頃安部貞則奥州より下野・安曇を経て市田郷に來り住み、松岡に城を築き之に住み松岡平六安部貞則と号し、市田郷に土着し」

次第にこの地を本拠として発展しその頃の下伊那の豪族小笠原・下条氏に次ぐ竜西地域の勢力を保有するに至った。そして、前記のように、第四代帯刀が自家の武運長久や領内の平安を祈願するため、勧請したのだろうが、その勧請した祭神については後ほど記す

ことにする。

なお、「萩山神社」と云う名称については、江戸時代の文書には、「諏訪大明神」或は、「下市田村八幡宮」などあり、明治十五年調査の神社明細帳に、始めて、「萩山神社」とあるが、その由緒については触れていない。

《文芸》

一句の風韻

一区 木村昭選

名水の舌にまろやか初茶会

土屋あや

新年はじめて催す茶の湯を初茶の湯というが、茶の湯の師匠宅でひらかれる社中の交歓をかねた稽古始めである。ここに名水とあるのでこの辺りでは猿庫の泉を思いうかべるが、その水を汲んで来ての茶会であろうか。ある茶人が天竜の下流から名水のあることを知り、味わいもとめ遠江の国から信濃の国までたどりきて、ついに猿庫の泉をさがり得たという物語りはあまりにも知られているが、この一句華やかなうちにも新春のはりつめた空気がうかがえて好ましい。

予後の身の起居ひそかや冬そ
うび

宮崎 操

操さんの御主人 郁夫さんは、句集「太虚」をもつ大人の風格よろしき俳人であった。郁夫さんの没後、夫人はそれまでの短歌を捨て俳句をはじめられた。最近身体の不調から通院のあけくれだが、予後の身をかばうひそかな起居は、華麗な冬そうび(冬のぼら)を配することによって、哀歎をふかめ得た。

極月の那覇に真青なゴルフ場

平沢学人

学人さんは八十をいくつ越えられたであろうか。夫人を喪ってより身辺とみにさみしくなったとはいえ、趣味の暮に句に親しんでおられる。この句は

返り咲く桜の白しダム湛へ
大脇甲一
小春日和がつづく、草木が時ならぬ花を咲かせることがある。これを帰る花、忘れ花または狂い咲きなども

雑感

新春を迎えて



三区 横前 末子



あけましてお目出度うございませう。皆様佳い年を、お迎えになったことと思います。

くる年もくる年も今年こそは……と、年頭に思うのですが、春になれば、のんびりとして過ごし、夏になれば、暑い暑いと何となく、涼しい日をまちのぞみ、秋になれば、あれもこれもと心ぜわしく、冬になれば、さむいさむいと、一日みじかく過ぎて行きます。こんな事ではと思うのですが、よく考えて見ますと、こうして健康で、一日一日を送れることは、平凡ですが、幸せなんだと、思うこの頃です。

昔は「よかった」なんて私は思いません。のんびりとしていて、良い事もあり

ましたが、戦争があり、食べるものも無く、行く所へも仲々行けず、着る物も買えなくて、今は、働けば、それ丈のこともあります。店へ行けば、何でもあります。旅行も、自由に出来ま

す。でも人それぞれなので、自分を、しっかりとコントロールして、毎日感謝してくらさなければ、と思いま

す。恩恵を感じます。今年も、身も心も、健康で、一度しかない人生を、大切にしながら、新しい年ののはじまりに、あたりまえのことながら、あらためて、私は思いました。

一区 北沢 順子



今は、モノが有りすぎて、幸せすぎ、またモノに頼りすぎると思います。たとえば子供の遊びにしても、昔は、自然や小さな生きものを相手に遊び、身近にある自然と親しみました。いたわりの心を持つようにと、生にたいする知識が、心の中に育って行ったのではないのでしょうか。今の子供達に、私達の子供の頃と同じ環境は無理なことですが、たまには、親子で自然にたしむ日を持つことも、良いと思います。私達人間は、悲しいとき、うれしいとき、自然に親しむことによって、

何かに付け未熟な私は、嫁いで二度目のお正月を迎えました。二年前の一月、私は全く経験の無い農家へ嫁いで参りました。

皆様、新年明けましておめでとうございます。新年を迎えて一言と言う事ですが、これと言った話は出来ません。けれど私が農家へ嫁いで来てからの話を少し書かせて頂きます。

私の家は、父母弟と主人の五人家族ですが、弟は、家を離れて生活しており、すので、現在は四人家族で

数年前沖縄に旅された折の囑目吟である。一気に読みくだした調べはいかにも俳句的である。極月(十二月)ゆえ南国のゴルフ場の芝の青さが、つよく印象づけられたのである。

炭をつぐ記憶の中に母の背な

豊原とよ子

父や母の齢に近づくにつれて、亡き親のことが何かにつけて思い出されるものである。ふとした仕種が母に似ていると指摘されてハットすることもあ

豆腐屋の湯気の匂へり路地に霜
同じ作者のこれは、夜勤明けの帰
途目にした情景であろうか。



六区 高橋 恵一



す。農業は主に、果樹・水稲・野菜です。土に親しむ事あまり無かった私には、何かが始めての事で、とまどいがちの毎日でした。主人は、勤めに出ていたので、すが、いつ頃の事でしょう。突然ハウスのユリ作りを始めると言い出したのです。もちろん、主人自身、花など作ったことも無いのですが、友人の勧めもあり、又これから先、家族が増えてきた時、やはりある程度の貯えも無くてはと、お互い、取らぬ狸の……で、始める事にしました。

その年の十二月、ユリ作りの盛んな、七久保ヘユリの球根掘りに出掛け、三千球程の球根を持ち帰り、それを一つ一つ用意された畑

ついでこの間、新年を迎えたばかりの気がしますが、またまた新年。年令と共に月日の経つのが、全く早く感じられます。

明けまして、おめでとうございます。皆様には、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

さて思いつくままペンを走らせていただきます。皆様方には申すまでもなく、区は勿論のこと、各種役職の方のご苦勞なことは、ご(次面上段へ)



作文

おじいさん

六区

六年 熊谷真裕美

苦勞なことは、ご理解なさっていることは存じますが、折にふれ、末だ理解不足を感じる時があります。私自身も、反省することが多々あります。役員の方の骨折りがなければ、全ての事柄はスムーズに運ばないでしょう。自からを犠牲にし役職の為に尽す、そんな役員さんに「おまかせ」の部分、かなりあるのではないのでしょうか。今年こそは、より理解を深め、大いなる協力、積極的な参加により皆の力で事にあたる様、心掛けたいと思います。そして、そこから生まれる大勢の人との触れ合いが、部落・区の発展、ひいては、明るく、豊かな町づくりに、最も大切であり、役立つものと考えます。皆様方には、如何が思われるでしょうか……。

最後に、下市田広報発行を、心からお喜び申しあげます。そして、広報が皆さんの心を通して、区の発展に役立つことを祈念すると共に、創刊号に寄稿出来ましたことを、この上ない喜びと、感謝いたします。



おじいさんのほねをひろいました。すくなくて細かった。おじいさんは、病気で、手術をしました。手術のときは、みんなで病院へ行きました。それから、すこしよくなりました。でも、ほかの所が、わるくなり、で、退院できませんでした。で、奉仕作業について

二区

中三 朝比浩一郎

中学校の重大な部落行事の中に、奉仕作業があります。奉仕作業というのは、その名の通り、自主的にやる作業のことです。

ぼくたち下市田二区では、下市田駅の掃除をやっています。下市田駅の奉仕作業とは、伝統的なもので、全校朝会の時、校長先生にはめられたこともあります。ぼくが、中学に入って、初めて、奉仕作業という言葉

も、おじいさんは、「退院したい」といって、家へ帰らせてもらいました。それから、いっしょに、お茶をのんだりしたけれど、トイレへも行けないうらいに、なっていました。わたしは、それをみると、かわいそうになりました。体重だって、わたしより、かるいぐらい、はそくなっていました。おじいさんが、死んじゃうとき、かなしくて、おじいさんを、見ていられず、か

部落差別について

二区

六年 倉沢 和彦

学校で映画を見せてくれた。部落差別についての映画だった。そういえば、よくポスターを見かける。でも自分は部落差別の意味を考えようとしていなかった。この映画を見ていて部落差別はやってはいけないのだと、思えてきた。あの地方から来た人とは付き合

巨人ファン

六区

六年 中垣 裕彦

ぼくの家の人は、全員巨人ファンです。巨人が負けると、次の日の新聞は見たくなくなります。この間も日本シリーズで巨人が負けると、家中がしーんとなっていました。始めは三

対二とリードしていたのに逆転されてからは暗くなっていました。そして、巨人の監とくが王になってからは、「絶対、優勝してほしい。優勝してほしい」と期待をかけています。うちでは、中日新聞をとっているけれど、中日新聞は中日ドラゴンズのことばかり

ろくなのがないとか、なぜ同じ人間なのに、お互いに仲良くしようとしんないのか。仲間はずれにする人は広い世界を知らないのだから。封建時代のように個人の自由、権利などを昔からの、ならわしとして奪う考えは、改めたいと思う。

△編集委員の紹介△
—どうぞ、よろしく—
区 長 林 直輔
副 区 長 土屋 公
下市田公民館長
委 員 小島 正美
田 戸 純 市
小 林 恵
唐 沢 武 文
福 島 正 夫
上 沼 啓 孝
林 一 雄
松 島 かのえ
北 林 倫 子
高 木 佐 江 子

編集後記

かかっているのでもないやります。勝った時はもちろんのこと、負けた時も一番上に大きくかくからです。それで、おとうさんは江川ファンで、おじいちゃん江川がきらいなのでいつもケンカになります。それでおかあさんは、原辰徳のファンで、おねえちゃん中畑のファンです。でもみんな巨人は大好きです。なので巨人に絶対優勝してほしい。



第一号の発刊でありますので、編集委員一同がひやひやで編集に取り組んだわけですが、熱心に全員が協力し合って出来上がりました。立派な下市田区報「萩の郷」第一号が、皆様方のご協力により出来たわけであります。投稿いただいた方々に感謝申し上げます。年二回発行を予定いたしております。次回第二号は六月頃原稿を提出願うことになると存じますので、今回と同様多勢の方から投稿をお願い申し上げます。